

2009年6月15日発行

第546号
(通算)

環境と健康

環境保健・生活科学・コミュニティ活動の総合情報紙

発行者

HIROSHIMA ENVIRONMENT & HEALTH ASSOCIATION
財団法人 広島県環境保健協会

近光 章
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL <http://www.kanhokyo.or.jp/>

低炭素社会づくりへ“メガソーラー”
脱温暖化センター等で「研究会」を設置～広島県～

コスト高などの課題もあり、

国内では、研究用、公用用、

大手企業の環境活動動向とし

て九箇所で導入されている

にすぎない。

広島県は降雨量が少なく、

日射量が多いという地域特

性からして太陽光発電の導

入にしており、他県に先

行して、適地調査や研究会

の開催、機運の醸成などを

図ることで、メガソーラー

発電の導入を促進する事業

をスタートさせた。

その一環として、四月一

十二日に「広島県太陽光発電導入促進研究会」

が設置された。研究会の委

員は、森嶋彰（広島修道大学

教授）、（環境政策）、餘利野

直人（広島大学教授）（電力工

学）の学識経験者のほか、

中国電力、県商工会議所連

合会、国（中国経済産業

局）、県（環境県民局、商

工労働局、企業局）の関係

者九名で構成、当会も啓発

活動団体として薦田直紀脱

温化センター長が委員に

就任した。

◆中国電力「ガソーラー」を検討中



屋上に設置された太陽光発電。メガソーラーはさらに広大な敷地が必要

メガソーラー発電とは

●メガ（mega）は「100万の」という意味で、100万ワット = 1000キロワット以上の規模を有する太陽光発電のこと。

住宅用では3~4キロワットが標準。

●1メガワットの発電設備の設置に必要な面積は約1.5タール（サッカーフィールド約2面分）

研究会では、森嶋教授を会長に選任、事務局（県環境政策課）や各委員からの情報提供と意見交換が行われた。そのなかで、中国電力が1メガワット程度の太陽光発電設備の設置を具体的に指向して検討中の発言が注目された。

十月末現在といわれている。

現在、当会でも、太陽光発電普及拡大センター（JPEC）の行う補助事業の窓口を開設、徐々に実績がある。

増えており、メガソーラー発電の導入が、さらに拍車をかけることになりそうだ。今後、研究会では、アンケート調査結果や導入事例調査などをもとに、導入促進方策を取りまとめよう。

私たちの周りには、さまざまな食品が流通している。これらの食品には、食品衛生（以下、生活）〔送〕といつ。

私たちの周囲には、さまざまな食品が流通している。これらの食品には、食品衛生（以下、生活）〔送〕といつ。

により、その製造、加工の方法や成分などについて基準や規格が定められているものがある。

そこで、食品の安全を確認するため、保健所の食品衛生監視員が、店舗などから法に基づき、無償で検査を行うなどして、食品の安全確保に努めている。

このたび当会では、法に基づく登録検査機関として、収去された食品の一部につ

した食品について、製造所や販売店等に対し、廃棄・回収等の必要な行政措置を行なうなどして、食品の安全確保に努めている。

違反食品の流通を防止する目的は、

収去検査の目的は、違反食品の流通を防止することで食品の安全性を確保することである。

検査項目は百五十以上

環保協



検査項目に応じてさまざまな器具を使用

に必要な最小限の食品を探取できる。この行為を「収去（しゃくきょ）」といふ。収去した食品は、保健所などに持ち帰り、定められた方法により検査される。この検査結果をもとに、保健所では規格基準等に違反

した方法により検査する。取去（しゃくきょ）された食品は、保健所などに持ち帰り、定められた方法により検査される。この検査結果をもとに、保健所では規格基準等に違反

して、保健所に代わり検査を実施することになった。対象となる食品は、広域に流通する食品、県の特産品、そして消費者の利用頻度が高く食中毒の原因となるやすい食品が中心で、検査項目は、汚染指標菌や食

物の認可を受けた業務規程に基づき、関係者が一丸となり取り組んでいく。

（環境生活センター）

とおり、より一層正確な検査が要求される。

今後とも、公正かつ信頼

を実施することになった。

対象となる食品は、広域

に流通する食品、県の特産

品、そして消費者の利用頻

度が高く食中毒の原因とな

るやすい食品が中心で、検

査項目は、汚染指標菌や食

物の認可を受けた業務規程

に基づき、関係者が一丸と

して取り組んでいく。

新型インフルエンザに思うこと

琴線歌

▼毎年冬になるとインフルエンザの流行が話題となる。そしてあまり知られていないが、高齢者などを中心に多くの人がインフルエンザのため「く

なっている。私は冬になるとだけマスクをしている。予防効果は賛否両論あるが、どの程度を保つことにより効果はあると感じている。また、マスクは他人への感染を防ぐことは確認されている。

カゼは発症の前日から入にうつすため、流行時は症状がなくても普段からマスクをすることは大事である。しかし、冬場に電車やバス、デパートなどの人込みでマスクをしている人は多いのではないか。人がカゼをひくと、人から人へうつし、ねずみ算式に被害者を増やしてしまう。自分は丈夫だとしても、持病や高齢などにより免疫力が低下しやすくなるのではないか。

（健康クリニック副所長 武生英一郎）

環境と保健の未来をめざして 財団法人 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1 (広島県公衆衛生会館)
TEL (082) 293-1511 大代表 FAX (082) 293-1520

(財) 広島県環境保健協会 <http://www.kanhokyo.or.jp>
脱温暖化センターひろしま <http://www.kanhokyo.or.jp/ondan/ondan.html>
広島転倒予防研究会 <http://www.kanhokyo.or.jp/tentou/>
広島県禁煙支援ネットワーク <http://www.menet.gr.jp/kin-en/>

